

第2035回埼玉県教育委員会定例会議事録

- 1 日 時 令和8年8月6日（木） 午前10時開会
午前11時7分終了
- 2 場 所 埼玉県教育局教育委員会室
- 3 出席者 石川教育長、櫻井教育長職務代理者、今井委員、神山委員、小野委員、鈴木委員、佐藤副教育長、案浦参事、小谷野教育総務部長、田中県立学校部長、岡島市町村支援部長、平野教育総務部副部長、森県立学校部参事兼高校教育指導課長、我妻特別支援教育課長
廣川書記長、高久書記、宮書記、荻野書記、齊藤書記、北澤書記
- 4 会議の主宰者 石川教育長
- 5 会 議
- (1) 前回議事録の承認
- 全出席委員異議なく本件記載どおり承認
 - 石川教育長が、今井委員を議事録の署名者に指名した。
- (2) 協議事項
- ア 令和9年度埼玉県立高等学校において使用する教科用図書の採択について
- 石川教育長 この協議につきましては、県立高等学校の教科書採択に関する協議でございますので、委員御自身が教科書発行者との関わりがあれば、御発言をお願いします。
- (発言なし)
- 石川教育長 特にないようですので、先に進めます。協議の進め方ですが、まず、事務局から概要について説明させます。事務局の説明に対する質疑を行った後、各教科・科目における教科書の調査研究及び各学校の選定理由書等の確認を踏まえた意見などを伺います。その後、採択案をまとめるに当たっての総括的な質疑・意見交換を行うという流れで進めてまいります。それでは、まず、事務局から概

要説明をお願いします。

森県立学校部参事兼高校教育指導課長（提案理由、文部科学省検定済教科書及び文部科学省著作教科書並びに令和9年度使用埼玉県立高等学校教科書申請数一覧について説明）

石川教育長 それでは、事務局の説明に対する質疑を行います。御質問等ありましたらお願いいたします。

櫻井教育長職務代理者 資料の参考3で「高等学校学習指導要領の改訂のポイント」という内容を説明していただきましたが、今回の教科書選定に当たって、事務局は各学校に対して、どのように具体的に指導したのか、御説明をお願いします。

森県立学校部参事兼高校教育指導課長 平成30年度告示の学習指導要領では、「『主体的・対話的で深い学び』に向けた授業改善」がポイントの一つとなっております。そこで県では、高等学校学習指導要領の改訂に伴い、資料の参考2にありますとおり、「令和9年度使用埼玉県立高等学校教科書の選定基準等について」という通知の中の「3 調査の観点」の（2）オになりますが、「生徒の主体的・対話的で深い学びを実現する上で、どのような配慮がなされているか。」について項目を加えまして、各学校における教科書選定の基準を示し、指導いたしました。このように、資料の参考3にございます、「高等学校学習指導要領の改訂のポイント」を踏まえて、各学校に指導をしてきたところです。

神山委員 やはり採択に当たって、教科書選定の公正性・透明性というのは非常に大事だと感じました。資料にも21ページから実際の通知を載せていただいておりますが、改めて、各学校に対してどのように指導を行っているのか教えてください。

森県立学校部参事兼高校教育指導課長 県といたしましては、4月の校長会議、副校長・教頭会議等において、法令遵守と公正確保について徹底するよう、「教科書発行者との適切な関係の確保に係る留意事項」という通知を基に指示いたしました。特に、各学校における選定作業が本格化する年度当初から7月初旬までは、教科書選定に関わる教科書発行者との接触については、公正性・透明性の確保の観点から控えること、という指導をしています。

石川教育長 他に、御質問、御意見はございませんでしょうか。

(発言なし)

石川教育長 次に、教科書の調査・研究に取り組んでいただいた上での御意見をお願いします。

今井委員 生成ＡＩについて少し述べさせていただきます。ＡＩ技術が急速に発展する現代において、その利便性や可能性だけではなく、活用に伴う課題や倫理的な側面についても理解しながら、主体的に活用する態度を育成することはとても重要だと考えています。美術では、生成ＡＩを用いた作品の生成を取り上げていたものがありました。生成ＡＩによる表現活動について学ぶとともに、著作権やオリジナリティの問題、意図しない類似表現、そのような可能性などの留意点にも触れられており、ＡＩが生み出す表現と人間の創造性との関係について適切に理解を深めることができる題材だと感じました。これからもＡＩがどんどん発展する中、大変だとは思いますが、子供たちにより良い生成ＡＩの活用について御尽力いただきたいと思います。

鈴木委員 私は情報活用能力という観点から教科書を研究しました。生物基礎の教科書では、巻末資料が非常に充実していました。例えば、測定結果の分析や、ＰＣの使い方、データの有効な活用方法が記載されていました。また、今、非常に大きい問題である著作権について、著作権に配慮したデータの取扱いというところまでも触れられており、非常に良い構成だと思いました。また、情報Ⅱの教科書についても全体にわたって、情報の扱い方や整理の仕方を扱っており、非常に良い内容だと思いました。私は普段、一般企業におりますが、かつてはデータシステムエンジニアというプログラムを開発する人間を非常に重要視しておりましたが、それに加えてデータアナリストという情報をどう分析していくかということも非常に重要になってきています。情報は経営資源の中でも大きな扱いになりますので、高校生のうちから、こうした内容に触れておくことは、非常に良い内容だと思いました。

小野委員 私は共生社会の実現、そしてそれに取り組むための方法としての探究的な学びという観点から、教科書を研究させていただきました。まず、共生社会の

実現というテーマは今、広く展開されているところですが、例えば数学Ⅰにおいては、単元内容を応用した学習課題というページが巻末の方に設定されていました。ここでは三角比の知識を応用して、バリアフリーという観点から、車椅子ユーザーにとって望ましい傾斜路というのはどんなものなのだろうかということを考えさせるような部分がありました。学習内容を日常生活や、あるいは具体的な社会課題と関連付けながら、誰もが利用しやすい環境作りを考えることを通して、共生社会の実現につなげていくということができる題材だと感じました。こういった題材は他にも様々、例を挙げればきりが無いほど入っていたわけですが、社会的な課題を知識として理解するということにとどまらず、具体的に直面している課題に対して、一定の解決策を模索するいわゆる探究的な学びというもの具体的な方法、それから具体的なテーマということを理解することにもつながるのではないかというふうに考えました。そのような観点に立つと、もう一つの観点で、具体的な探究の手法を意識した内容もいくつか見受けられました。これも1事例ですが、例えば公民では、地球温暖化の対策を考えるというページが設定されていましたが、とにかくこういったものは、考えなければいけないということは分かっている、日常生活とはかけ離れたものというふうに捉えられがちです。もう既に実践されているような対策を基に、それらを整理しながら、根拠に基づいて優先順位を検討するといったような具体的な手法が示されている。これは多面的、多角的に考察を深めるということに直接的につながるような記述だと感じました。私は大学に勤めておられて、探究的な活動は今、一部では問題になっているようなところもありますが、やはりここでの学びの先には、もっと発展的でより具体的な、そして役に立つというようなところまで踏まえた形での学びにつながっているのだということを意識させるような記述がなされているというところを確認させていただきました。以上のように、様々な教科、科目を通して、多様な立場や特性を持つ人々への理解をより一層深めていくと、その先には誰もが安心して生活できるような社会の実現といったようなものを具体的に考えていくというようなこと、そしてそのために、主体的・対話的で深い学びを具体的にどのように展開していくかという、その辺りのことを考えながら、学

びを深めていくということが重要な視点であると考えました。

石川教育長 その他いかがでしょうか。

(発言なし)

石川教育長 今回、私も各教科の教科書について調査研究をさせていただきました。

私も先ほど御意見がございましたA I 活用や情報活用能力、それからまた共生社会の点など、工夫されているものが多いと思いました。全体として基礎的、基本的な知識技能の習得はもちろんですが、課題を発見し、主体的に考えて、他者と協働しながら解決していく力の育成を重視した構成になっていると感じました。多くの教科書におきまして、I C Tの活用が工夫されており、Q Rコード等を読み取ることで、動画や音声、学習資料、それからシミュレーション教材など、学習内容の理解を深めるための多様なコンテンツを活用できるようになっておりました。こうした機能は、一人一台端末環境の下で、生徒の興味・関心を高め、個別最適な学びや協働的な学びを支えると思いますし、これからの社会で求められる情報活用能力の育成にも資するものであると考えます。今回調査した教科書ですが、全体として、生徒が主体的に学び、自らの考えを深めながら、必要な資質・能力を総合的に育成する上で効果的なものであると考えました。

石川教育長 その他、御意見等いかがでしょうか。

(発言なし)

石川教育長 それでは次に移ります。教育委員の皆様には5月から6月にかけて学校訪問へ行っていただきました。また、6月には13校の県立高校の校長と意見交換会を行っていただき、生徒の実態や教科書の使用状況、教科書の選定状況について確認をしていただきました。そして、7月に各学校から教科書の選定理由書が事務局に提出されましたが、委員の皆様にも各学校の選定理由書を確認していただきました。これらの取組を踏まえて総合的な御意見をお願いしたいと思います。まずは、学校訪問を踏まえての御意見があればお願いいたします。

神山委員 ただいま教育長に御発言いただきましたとおり、本年も様々な学校の訪問を通して、生徒の方々の学びの様子を拝見する機会を頂きました。その中で私の方からは大宮科学技術高校への訪問と教科書選定について発言させていただ

きます。大宮科学技術高校ではスクール・ミッションとともに目指す学校像として、「グローバル化する社会の持続的な発展に向けて、高い教養と先端技術を活用した創造性を育み、我が国の科学技術をリードする人材を育成する学校」という教育方針を掲げられております。実際の学校現場を拝見して、非常に活気ある教育活動が展開されている現場で、これらの方針を教職員の先生方が皆さんで共有されて、日々教育に尽力されていることが現場を見て非常に分かりました。また、本年３月に竣工した情報サイエンス棟をはじめとした施設設備の充実とともに、実技科目を中心に、生徒さんが創造的に取り組めるような丁寧な指導が行われておりました。このような現場の状況を踏まえて、教科書選定の理由書を拝見いたしました。非常に幅広いニーズの生徒さんがおられる学校だと思いますが、教科書選定においても、一人一人に寄り添った観点で、分かりやすく学びやすい教科書の選定が的確になされていると思いました。学校訪問と選定理由書、教科書を見させていただいた意見として述べさせていただきました。

鈴木委員 私もいろいろな高校、特別支援学校を拝見しまして、非常に勉強になったと思います。本庄高校に行きまして、生徒さんは前向きにやっていますし、先生方も非常に熱心にやられていて、非常に良い高校だなと思いました。選定理由書を読ませていただきましたが、基本方針の中でも、「日常の授業で生徒を支える学校づくりと質の高い学びの実現」が示されており、その中でも、やはり基礎をきちんと大事にしていこうというところに触れています。「日常の授業で生徒を支える学校づくり」という点に精通しているのかなと思います。各教科書の選定理由も一つ一つ読んでいくと、理解しやすい、文章が読みやすい、文章とデータのバランスが良いといった点が挙げられています。また、それらの良さから深い思考力を得ることができることや、発展的な内容にまで触れていることも評価されています。そのため、本庄高校を見たときに、非常にこの教科書の選定理由が良いなと思いました。本庄高校の生徒の実態や、学校の教育方針を踏まえた教科書選定だと思いました。

石川教育長 他に御意見等はございますでしょうか。

(発言なし)

石川教育長 それでは次に、校長との意見交換会を踏まえての御意見があればお願いいたします。

櫻井教育長職務代理者 意見交換会に出席させていただきました。出席した各校長先生から、教科書選定について考え方などをお伺いする機会がありましたが、一例として挙げれば、三郷工業技術高校の校長からは、五つの学科を持つ工業高校で、卒業後は就職する生徒が多いことと、基礎学力の向上を重視した習熟度別学習を実施していること、また教科書選定基本方針については、基礎基本となる知識・技術・技能の習得に主眼を置いて、生徒が理解しやすいものとしていること、この３点について説明がありましたが、実際に選定理由書にあるとおり、教科書を見てみますと、校長の説明のとおり、基礎から発展まで丁寧に記載している教科書を選定していることが分かりました。このように、意見交換を通じて、各校とも教育目標や方針に合致した教科書の選定がなされているということを感じました。

石川教育長 他に御意見等はございますでしょうか。

(発言なし)

石川教育長 それでは次に、今年度新たに６校の特色ある新校が開校したわけですが、その新校に関して御意見があればお願いいたします。

小野委員 今、教育長がおっしゃったように今年度から６校、正に特色ある新校が開校したということで、各報道等々を通して、いずれも本当に順調にスタートを切ったかなと感じております。その中で、越生翔桜高校の教科書選定、それからそれに係る基本方針及び選定理由書を確認させていただきました。越生翔桜高校は、目指す学校像として「多様な学びで主体性や創造性を伸ばし、社会で活躍できる人材の育成を目指す学校」という具体的なものを打ち立てておられました。その中で、それぞれの個性豊かな生徒が、それぞれ持てる力を最大限に伸ばしていく教育活動を目指している。実際には、普通科と美術表現科の２学科を有していて、正に多様な興味関心、目指すところも様々な生徒たちが入学してくるということを想定した形で開校したわけですから、個に応じた指導を充実させる。具体的には少人数指導や、習熟度別の指導を積極的に取り入れ、活用していくとい

うことで、すごく良い表現だなと思いましたが、分かる授業を目指しているということが理由書等の中からも確認することができました。実際に選んでこられた教科書の中身、それから選定理由を見ていくと、やはり繰り返し使われている言葉は、具体的で分かりやすい。視覚的に捉えやすい。そういったような形で、まずは基礎、基本というようなものを確実に捉えることができる。そういった学習内容が捉えやすいような工夫がされているもの、具体的で身近なものを捉えた上で、その先に探究活動といったようなものを想定した課題設定がされているものなど、生徒が学びを進めるための助けとなるような教科書が選定されていると感じました。以上の点から、越生翔桜高校の目指す学校像や育成を目指す生徒像に沿った教科書の選定がなされていると考えました。

石川教育長 他に、御意見等はございませんでしょうか。

(発言なし)

石川教育長 次に採択案をまとめていきたいと思いますが、採択案をまとめるに当たって、何か御意見がございましたらお願いいたします。

櫻井教育長職務代理者 今、各委員からの発言もございましたが、今回、様々な学校を訪問して、各校の様子を直接見させていただき、校長の意見も直接お伺いする機会も頂きました。これを通じて、学校ごとに、いろいろな特色や強み、進路希望も多様であるということが十分に分かりました。教科書選定に当たり、今までの委員の発言も踏まえ、各校とも生徒に適切な教科書を選ぶために工夫がなされていて、校長を中心にして組織的に生徒の実情に合った教科書を選定していると確認できました。これらの結果を総合的に勘案して、学校が選定した結果を踏まえた上で、採択案をまとめることとしてよいと感じました。

今井委員 教科書は各教科の主たる教材でもあり、子供たちに与える影響はとても大きいと感じています。その重要性を踏まえ、私自身も教科書について丹念に調査・研究を行いました。また、学校の選定過程や理由を確認し、選定の重みを各学校が十分に認識して、慎重に選定作業に当たった様子が確認できました。さらに私たちは学校訪問や意見交換を通して、各学校の実情や生徒の実態も知ることができました。今回、学校ごとの実態や生徒の状況を把握し、それに応じた教科

書選定がなされていることを確認いたしました。これらのことを踏まえ、総合的に判断しましたところ、採択案をまとめることとしてよいと考えております。

石川教育長　ただいまお二人の委員から、「各学校には、学校ごとの特色があり、生徒の進路希望も様々であることが実感できた。また、委員御自身でも教科書を丁寧に調査研究し、各学校の選定理由書と照らし合わせることで、各学校が自校の生徒に最も適した教科書を選定しているということが確認できた。」といった御意見。さらには、「各学校では、選定の重みを十分に認識した上で、慎重に選定作業に当たっている様子が確認できた。また、学校訪問や意見交換会を通して、各学校の実情や生徒の実態を知ることができ、それに対応するよう、しっかりと教科書を選定していることを確認することができた。」といったような御発言がありました。お二人の委員からは、「これらのことを総合的に判断して、学校が選定した結果を踏まえて、採択案をまとめることとしてよいのではないか。」という御意見を頂きましたけれども、いかがでしょうか。

○ 全出席委員同意

石川教育長　御賛同いただきましたので、本日の協議を踏まえ、次回、事務局から議案として提案し、採択したいと思います。

○ 協議の結果、次回の教育委員会で採択することになった。

イ 令和9年度埼玉県立特別支援学校において使用する教科用図書の採択について

石川教育長　この協議につきましては、県立特別支援学校の教科書採択に関する協議でありますので、委員御自身が教科書発行者との関わりがあれば、御発言をお願いします。

(発言なし)

石川教育長　特にないようですので、先に進めます。協議の進め方ですが、まず、事務局から概要について説明させます。事務局の説明に対する質疑を行った後、各教科・科目における教科書の調査研究及び各学校の選定理由書等の確認を踏まえた意見などを伺います。その後、採択案をまとめるに当たっての総括的な質疑・意見交換を行うという流れで、進めてまいります。それでは、まず、事務局から

概要説明をお願いします。

我妻特別支援教育課長（提案理由、高等学校に準ずる教育課程で使用する高等学校用文部科学省検定済教科書及び文部科学省著作教科書並びに学校教育法附則第9条に定める教科用図書のうち、一般図書等について説明）

石川教育長 それでは、事務局の説明に対する質疑を行います。御質問、御意見がありましたらお願いします。

櫻井教育長職務代理者 特別支援学校の教科書採択に当たりましては、個々の児童生徒の状態や教育的ニーズなどを考慮した上での慎重な検討が必要であると考えています。ただいまの説明の中で、資料の32ページにある採択のプロセスについての説明がありましたが、その中で、「答申を踏まえて、教育委員会事務局では、校長会や教科書調査研究推進会議を開催して、丁寧な調査研究と適正な選定に向けて働き掛けてきた。」とありました。また、学校からの選定結果についても、「各学校における選定結果については、事務局にて検収し、選定理由書などを確認の上、必要な指導・助言を行った。」と説明がありました。これらのプロセスを見ると、県教育委員会が積極的に教科書の調査研究に関わってきたことは確認できるものではないかと思います。この中で質問ですが、教科書調査研究推進会議で県教育委員会がどのように選定に関わってきたのか、具体的に説明をお願いします。

我妻特別支援教育課長 今、御質問をいただきました学校教科書調査研究推進会議でございますが、各学校の教頭、それから学校教科書調査研究推進員ということで県教育委員会が任命した担当の教員に参加いただいて、例えばその児童生徒の障害の実態や、教育課程に適合した教科書選定が行われるよう、調査研究のための資料提供を行った上で、各種通知や資料に基づいた指導助言をしているというところでございます。また、各校からの調査研究結果につきましても、各校で実施される学校教科書調査研究委員会というものがあまして、その調査研究経過や、児童生徒の障害の状態、教育的ニーズ等を考慮して、どのような教科書が選ばれているのかなどについて確認をしているところでございます。

石川教育長 その他、御質問、御意見等ありましたらお願いします。

(発言なし)

石川教育長 それでは次に、教科書の調査研究に取り組んでいただいた上での御意見、御質問をお願いします。

今井委員 教科書の調査研究に取り組んだ上での意見と質問を述べさせていただきます。肢体不自由校の選定理由書を確認いたしました。東京書籍の「改訂版 新数学A」についてですが、イラストや写真・図解を多く使っており、文章とのバランスが理解しやすいと感じました。また、身の回りの題材を多く扱っている中で、生活の中での数学を意識できるという内容でした。身近な題材を多く扱っている中で、生活の中での数学を意識することができるという工夫もされており、実生活との関連にも重点を置いていて、生徒にとって、適した教科書であると思います。そこで質問ですが、教科書のサイズがB5版とのことですが、なぜB5版となったのか、その理由を教えてください。

我妻特別支援教育課長 例えば、高等学校で使われる多くの教科書はA5版という大きさでして、どちらかというとコンパクトで持ちやすく、文章中心の科目に採用されております。このB5版の教科書というのは、それよりも少し大きいということでありまして、紙面が広く、図や写真が多く使われているという傾向があります。今回、肢体不自由校が選んだ教科書ということではありますが、通常よりも大きいサイズというものでありまして、体を動かすことも困難である肢体不自由の生徒にとって、扱う対象が大きいことによって、例えば持ちやすさですとか、あるいはページをめくる操作がしやすいというようなことがあり、そのようなになってございます。

鈴木委員 いくつか視察した中では塙保己一学園が、視力に障害のある生徒さんがいらっしゃる学校で、ここも非常に学んでいる生徒さんが生き生きとして、先生方も非常に熱心に取り組んでおり、非常に良い学校だと思いました。ここは小学部、中学部、高等部といろいろな方がいらっしゃるということで、非常に良くやっていました。こういった障害のあるお子さんは、障害の程度も様々だと思います。弱視の方もいれば全盲の方もいる中で、生徒の実態や学習内容を踏まえるということで、例えば国語の教科書は拡大版もあれば、これに対応して点字教科書もあ

る。やはりニーズや需要を考えると非常に難しいのかなと思いますが、この大修館書店の「国語表現 改訂版」が唯一対応する教科書ということで、現場の方々が、これを選ぶというのは非常に良いことなのかなと思います。特に弱視の方と全盲の方が一緒に学ばれているということが非常に良いことだと思いました。共に学び合う環境を作るということを踏まえると、こういう教科書を選ぶということが、非常に実態に合っていると感じました。

石川教育長 その他、御意見等ございますでしょうか。

(発言なし)

石川教育長 次に移ります。教育委員の皆さんには5月から6月にかけて学校訪問に行ってくださいました。また、6月には14校の県立特別支援学校の校長と意見交換を行ってください、児童生徒の実態や教科書の使用状況、選定状況について確認をしてくださいました。そして7月には各学校から選定理由書が事務局に提出され、委員の皆様にも各学校の選定理由書を確認していただきました。これらの取組を踏まえ、御意見、御質問をお願いいたします。

神山委員 私からは、学校訪問を通じての選定に関しての意見を述べさせていただきます。今年、私は知的障害特別支援学校の上尾特別支援学校を訪問いたしました。小学部から高等部まであり、やはり年齢も広いですが、障害特性も非常に幅広いお子さんたち一人一人の実態に合わせた学習環境、教材を非常に良く先生方が工夫され、御尽力されている様子を拝見いたしました。特に高等部では、実習の事前学習が行われており、卒業後、自立社会生活に向けた進路学習に、生徒さんたちが主体的に学ばれて取り組んでいる様子を拝見いたしました。やはり、一人一人の自立ということで、ニーズの幅広いお子さんたちを自立に促していくという観点では、子供たちの実態に合った教科書選びが大切であるということ、現場を見て非常に実感いたしました。そのためには学年を超えた選定、教科書の使用や、一般図書の利用というのは、非常に現場に即した選択肢であるということを実感いたしました。

小野委員 私もいくつか特別支援学校を視察させていただきました。中でも印象に残ったのが、けやき特別支援学校です。この学校は小児医療センターの中に設置

されており、ある意味特殊というか、特色があるというところで、最初はやはり院内にあるということ、それから病気と闘いながら学んでいる子供たちが通っているということで、どちらかというとその治療に専念するため、学習は良くも悪くも背景に退いてしまっている部分なのかなと思っていたのですが、全くそのようなことはなく、むしろ学習するということを通して、入院するまでと同様の社会生活と、その部分で関連性を持てるということが、心理的な安定につながり、治療に対しても、学習に対しても前向きに取り組むことができるということをお聞きした上で拝見して、学校の存在意義というものを改めて確認することができたかなと思います。その意味で非常に印象に残りました。ですので、教科書ということよりも、それを使ってどのように学習していくか、正にその意味で状況に合わせた、例えばベッドサイドで学習するのか、実際に教室に足を運んで学ぶのか、あるいは、オンラインのような形でやるのか、様々な形式というところでの工夫も必要ということをお聞きして改めて思いました。その意味で、様々な困難に対して、そういったことに直面しても、学びを止めないという姿勢をすごく強く感じることができました。一方で、やはり病気と闘うということで、教材の内容として、特に道德の教科書等にある、具体的な記述で言えば「死」であるとか、「病気」であるとか、そういったものに対する記述に対しては、先生方が配慮しながら、検討した上で使用されているということも伺って、やはり様々な形での工夫や配慮をされているということ、そのような意味で、重要な位置付けとして今後も教育活動をしていってほしいと感じました。

櫻井教育長職務代理者　6月の校長との意見交換会に参加させていただきました。

各校長の説明をお伺いして、それぞれの学校の教育目標や目指す学校像、地域との連携に基づいて、校長自らが教科書の調査研究に主体的に関わった上で、児童生徒の障害特性に応じた教科書を組織的に選定していることを、その説明の中で確認することができました。また、児童生徒が地元の学校に転学した際に、円滑に学習活動に入ることができるよう、地域の学校で使用されている教科書の発行者なども考慮して選定されていることがよく分かりました。今回も参加させていただいて、校長の真摯な姿勢に接することができ、教科書採択をするに当たり、

とても参考になる意見をお伺いすることができました。

石川教育長 その他、御意見等ありましたらお願いします。

(発言なし)

石川教育長 それでは次に、採択案をまとめていきたいと思いますが、採択案をまとめるに当たっての御意見がありましたらお願いいたします。

鈴木委員 私もこれまで学校訪問や、今、櫻井委員がおっしゃった校長との意見交換会を通して、私も今年から教育委員になったので、なかなかこの現場というのを知りませんでしたので、非常に勉強になりました。やはり、いろいろな障害の種類と程度を踏まえて教科書を選ばなければいけない。校長、教頭をはじめ、各先生とも、現場の大変な御苦勞はあるんだと感じました。やはり各学校現場の状況を見ると、生徒さんのそういった事情に合わせて教科書を選ぶことが大事なんだと思いました。今回の各学校の教科書調査研究の会議録を一通り読みましたが、やはり中身は、一人一人の児童生徒に向き合って、校長先生のリーダーシップの下に、組織的に、「児童生徒にとって分かりやすい、使いやすい」、こういうところを主眼にして研究しているということが確認できました。教科書は、言うまでもなく学校授業における主たる教材だと思います。私自身も教科書の採択に関わるということで、非常に責任を感じていますし、喜びも感じております。今回しっかり教科書について調査研究をして、今日、加えていただいて非常に良かったと思っております。学校における選定の経緯というのを確認して、各学校がどれを選ぶのかということについて、中身を十分認識して、慎重に選定作業に当たったという様子も確認できました。こういったことを踏まえ、総合的に判断して、学校が選定した採択案ということで、今回まとめていくことでよいと考えております。

石川教育長 ただいま鈴木委員から、「学校における選定の経緯を確認する中で、各学校が選定の重みを十分に認識して、慎重に選定作業に当たった様子が確認できたこと等、総合的に判断して、学校が選定した結果を踏まえて、採択案をまとめることとしてよいと考える。」といった御意見を頂きましたが、いかがでしょうか。

- 全出席委員同意

石川教育長 御賛同いただきましたので、本日の協議を踏まえ、次回、事務局から
議案として提案し、採択したいと思います。

- 協議の結果、次回の教育委員会で採択することになった。

(3) 次回委員会の開催予定について

8月20日（木）午前10時